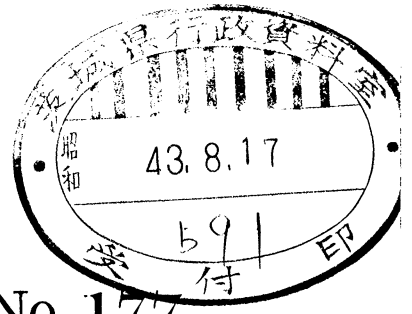


統計茨城



No. 177

7. 1 9 6 8

■ 統計基準局廃止の顛末……………	1
■ 農産物生産の動き(2)……………	2
■ 県内の産業(34)……………	4
■ 昭和42年度学校基本調査結果の概要……………	6
■ 宇宙時代の食料品 “クロレラ”……………	11
■ 県内主要経済指標……………	12
1. 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場……………	12
2. 世帯・人口および人口増減……………	13
3. 人口動態……………	13
4. 消費者物価指数(水戸市)……………	14
5. 県内金融機関別預金残高……………	15
6. 〃 貸出残高……………	15
7. 農産物の販売価格(平均)……………	16
8. 農業用品の購入価格……………	16
9. 茨城県工鉱業生産指数……………	17
10. 産業別推計労働者数・平均労働時間 および平均月間給与額……………	18
11. 主要品目小売価格(水戸市)……………	20
■ 統計漫歩(37)……………	22

統計基準局廃止の顛末

行政管理庁統計企画課長 松田 道夫

わが国の統計行政の中心として活躍を続けてきた行政管理庁統計基準局は、各省庁一局削減の方針に従い、昭和43年6月15日をもって約16年の歴史を閉じ、その担当していた事務は、行政管理庁行政管理局が所掌することになった。

行政改革の問題は、政府の重要施策の一つであり、第57臨時国会における総理の所信表明演説でも「昭和43年度においては、行政機構の簡素合理化、定員の縮減、諸経費の節減等、政府みずからがその姿勢を正して能率の向上につとめるとともに、財政体質の硬直化をもたらしている諸問題についてその根本的解決をはかる第一歩をふみ出す決意であります。」と述べられている。

一局削減によつて統計基準局など18の局が整理されたわけであるが、今回の措置については、その方法が一律であること、組織としての「局」の整理に止まり、所掌事務や人員などの整理までには及んでいないなど批判の声も聞かれるが、もちろんこれで行政改革が終つたわけではなく、むしろ今度の措置を出発点として今後の改革を進めてゆこうとする政府の姿勢に注目すべきであらう。

戦後、日本政府の統計機構は、分散型が採用されたことによつて統計の調整や基準の設定維持に当るいわゆる調整機関を持つ必要が生じ、昭和27年までは統計委員会、その後は統計基準局が設けられてきた、今回の措置によつて「独立した」調整機関の組織は廃止されたが、調整の必要という中味については、一切変更はない。むしろ、今後はその必要性はますます高まるものと想像される。

このような背景のもとで統計基準局の廃止が検討されたわけであるが、検討された事項の二三をあげると次のようなものがある。

1. 統計行政の中立性、専門性がそなわれてはならない。統計行政と全く異なる行政を担当していた従来の行政管理局長があらたに担当する統計行政をその特性を生かして行けるような組織上、運営上の配慮をする必要がある。
2. 統計法および統計報告調整法の重要な権限は、従来から統計における最高の専門職の地位である統計基準局長に委任されていたが、この考え方は、今後もつらぬく必要がある。
3. 各方面に統計軽視の疑惑を与えてはならない。これは、なかなか難しい問題であるが、放置できないものである。

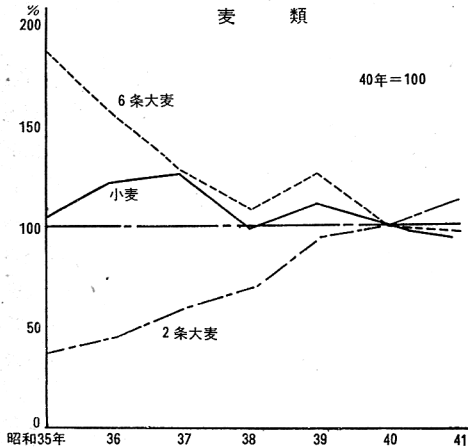
このほか幾つかの問題を検討した結果、行政管理庁設置法の規定により、行政管理局の中にあつたに法律上の職として「統計主幹」を設け、事実上は統計主幹が統計基準局長に代つて事務処理ができるような措置を構ずることとした。

さきに述べた統計法などの権限は、統計主幹に委任されることになった。国際的にも、国内的にも日本の政府統計機構の中心として認められてきた統計基準局長の地位は、今後は統計主幹が引継ぐことになつたわけである。組織を動かすのは人であるといわれているが、今回の組織変更を生かすのも殺すのも結局われわれの心がけ次第である。皆様方のご支援をお願いする次第である。

農産物生産のうごき(その2)

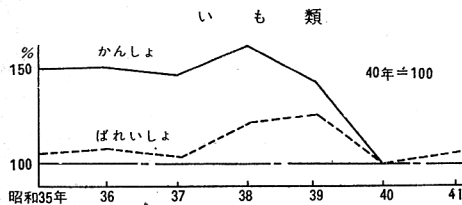
統計課農林統計係長 武田 省太郎

○麦類のうち6条大麦は毎年生産量が減少しているため麦類としての生産量も総体的に減少の傾向を示しておりますが、2条大麦は毎年増加の傾向にあります。このため麦類の昭和41年の生産量は前年に同じ指数を示しております。

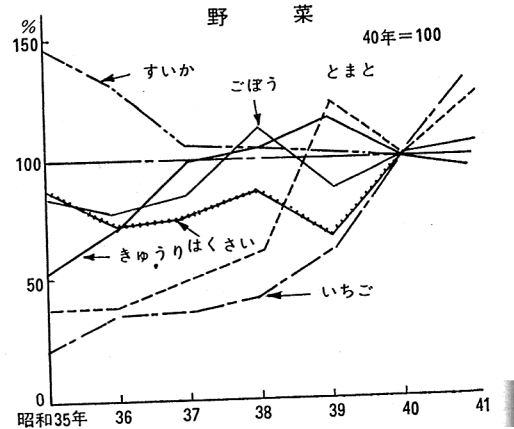


○いも類の生産量は昭和41年は前年に比べ1.3%の増加を示した。

かんしょは減少、ばれいしょは増加の傾向を示しているのが特徴であります。

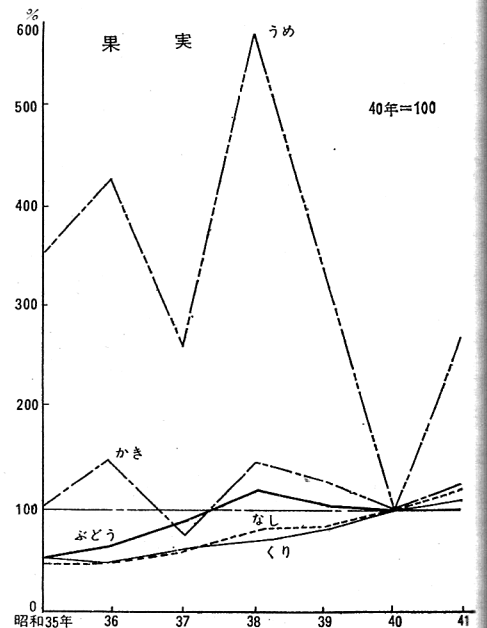


○野菜類は毎年順調な伸びを示しており、昭和41年は前年に比べ10.7%も伸びております。野菜類19品目のうち前年より20.0%以上伸びているのはピーマン、いちご、まくわうり、きやべつ、れんこん、とまと、ほうれん草等で県の生産特色が現れております。昭和41年の生産量が前年より減少しているのは、きゅうり、なす、ねぎ等であります。



○果実類は毎年その生産量が変化しながらも増加の傾向を示しており昭和41年は前年に比べ28.9%と大きな増加率を示しました。

中でもくり、なしは順調な伸び率を示しているが、ぶどうは横ばいの状態であります。うめはその年の気候条件によつて大きな増減を示しながら下向の傾向にあります。



○工芸作物は、たばこ、茶、こんにやくとも順調な伸び率を示しており、その伸び率の順位は、たばこ、こんにやく、茶、になっております。

○養蚕

昭昭38、39年とまゆの生産は上昇していたが、桑園の転換等によつてか生産量は減少の傾向にあります。

○畜産

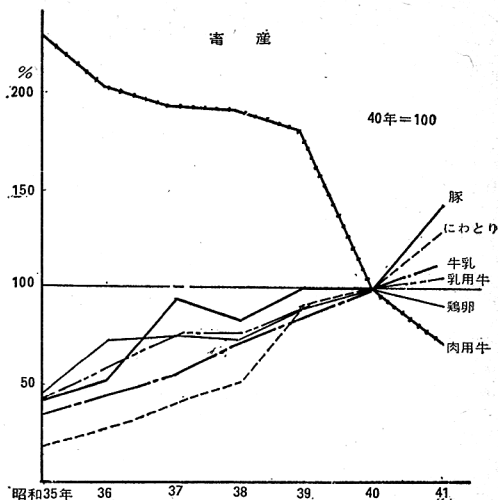
畜産物は農産物の中で最も著しく伸び方を示しており昭和41年は前年に比べ25.7%の増加率を示しました。昭和40年を100として昭和35年が43.2%、昭和41年が125.7%で、年率18.3%となり本県は畜産振興の面でも他県より先行しております。

昭和41年の生産量を前年に比べてみると、豚39.9%、にわとり29.5%と大きな増加率を示しているが、鶏卵、肉用牛はそれぞれ減少しております。

4地域別にみた生産指数のうごき

○農業総合

県の昭和41年生産量は前年に比べ9.0%の伸び率であります。これを上廻つて伸びているのが鹿行地域の



増加率(20.7%)であります。他の3地域は県の伸び率を下廻つており、特に県南地域は97.7%となり2.3%の減少率を示しております。

地域別生産指数の比較

(昭和40年=100.0)

地域別	年別	種別	農業									養蚕	畜産
			総合	耕種	米	麦	豆類	いも類	野菜	果実	工作		
県	昭和35年		82.7	97.0	98.3	114.2	99.5	139.3	77.2	86.5	76.7	92.1	43.2
	昭和41年		109.0	103.1	99.5	100.0	101.4	101.3	110.7	128.9	106.7	100.2	125.9
県北	昭和35年		87.0	99.5	98.7	117.8	124.9	180.1	73.7	88.2	74.3	90.3	50.0
	昭和41年		107.5	103.9	105.6	97.6	97.8	102.5	100.6	133.1	107.8	103.0	118.1
鹿行	昭和35年		81.0	97.2	96.9	103.0	84.7	115.8	100.2	110.2	54.5	74.8	42.0
	昭和41年		120.7	108.5	107.5	96.0	100.6	102.9	142.4	100.7	107.7	112.8	150.3
県南	昭和35年		84.3	96.5	98.2	113.5	106.0	133.0	79.3	76.4	76.6	79.5	48.2
	昭和41年		97.7	97.1	92.8	96.9	104.6	101.0	96.1	130.5	113.9	99.8	100.1
県西	昭和35年		78.8	96.2	98.5	119.5	51.8	141.3	77.3	106.2	91.6	112.4	33.6
	昭和41年		103.4	102.8	98.1	106.6	100.7	93.8	109.5	133.8	100.8	95.7	166.1

○耕種部門

県の昭和41年生産量は前年に比べ3.1%の増加率であります。これを上廻つて伸びているのが、鹿行地域(8.5%)と県北地域(3.9%)で他の2地域は県の伸び率より下廻つております。

○養蚕部門

県の昭和41年生産量は前年に比べ0.2%の増加でほぼ横ばいの状態ですが、これを上廻っている地域は鹿行地域、県北地域で他の2地域は下廻つております。

○畜産部門

県の昭和41年生産量は前年に比べ25.9%の増加率を示しておりますが、鹿行地域は50.3%の増加率で県のそ

れをはるかに上廻つた増加率であります。他の3地域は県の伸び率より下廻つているものの前年対比ではそれぞれ伸びております。

○品目別にみた指数の前年対比

県北地帯では結球白菜、いちご、まくわうり、うめ、にわとり等が相当の増加率を示しているが、すいか、みつば、肉用牛は減少率がはなはだしい。

鹿行地域では著しく増加している品目が多く、中でも、ばれいしよ、きうり、ごぼう、ねぎ、とうもろこし、かぼちや、きゃべつ、ピーマン、豚等の増加が目立つており特にピーマンとかぼちやは非常に増加しております。反面6条麦、ぶどう、肉用牛等は減少しております。県南地域では、豚の増加率が著しく、次いで

ほうれん草、かき等が相当の増加率を示している反面
みつば、ピーマン、こんにやく、肉用牛等が相当減少
を示しております。

県西地域では、いちご、きやべつ、ピーマン、うめ、
にわとり等が増加している反面だいず、ねぎ、肉用牛
等が減少しております。

昭和41年の地域別生産指数

(昭和40年=100.0)

種別	県	県北	鹿行	県南	県西	種別	県	県北	鹿行	県南	県西
農業総合											
耕種作物											
米	99.5	105.6	107.5	92.8	98.1	いちご	134.9	159.8	114.8	128.9	142.6
麦類						かぼちや	101.1	98.8	197.3	100.8	101.4
小麦	94.6	88.1	94.7	93.5	104.5	にんじん	102.1	111.8	102.5	93.2	87.1
6条大麦	98.8	97.9	58.5	93.8	105.1	きやべつ	130.4	136.4	166.5	112.6	143.3
2条大麦	113.6	113.6	108.7	117.2	119.4	まくわうり	134.9	148.0	133.6	130.6	133.8
豆類						ピーマン	211.9	112.4	249.2	68.9	158.9
らっかせい	101.9	97.6	100.6	104.8	102.6	果実					
だいず	95.7	98.6	101.5	94.1	78.7	くり	117.8	111.6	94.8	123.1	104.4
いも類						なし	114.0	102.4	122.7	124.4	108.6
かんしよ	100.4	101.5	101.8	97.7	92.5	かき	124.8	116.3	97.4	151.0	135.4
ばれい	105.0	105.3	124.4	106.8	95.4	うめ	258.4	256.0	114.6	215.7	463.5
しよ菜						ぶどう	101.6	117.1	79.6	100.9	98.8
野						工芸作物					
きゆうり	95.9	99.1	168.9	86.1	87.3	たばこ	107.0	108.3	108.0	115.2	100.0
とまと	124.2	117.5	87.2	118.8	134.9	茶	104.0	101.8	91.4	103.4	106.5
すいか	104.5	72.9	104.2	104.1	114.6	こんにやく	106.0	108.1	102.1	68.1	97.3
ごぼう	112.7	108.4	258.8	83.6	115.2	養蚕					
結球白菜	100.5	125.2	88.7	101.7	96.5	まゆ	100.2	103.0	112.8	99.8	95.7
なす	97.4	95.7	105.3	96.4	98.3	畜産					
ねぎ	87.2	83.8	167.1	88.8	79.7	豚	139.9	124.7	172.5	181.1	102.3
みつば	107.8	75.8	121.8	11.3	101.8	鶏卵	91.0	97.3	85.3	89.1	86.0
大根	115.3	112.2	114.2	124.5	113.4	にわとり	129.5	166.1	122.3	91.9	154.6
とうもろこし(実)	119.8	119.7	151.2	130.6	99.4	牛乳	111.0	110.7	105.7	112.2	113.3
こさいも	115.8	94.0	134.2	128.9	134.7	乳用牛	105.8	105.5	100.7	106.9	109.3
れんこん	126.1	134.6	139.5	125.3	104.9	肉用牛	72.2	77.6	57.7	69.0	75.4
ほうれんそう	122.2	107.2	139.0	139.7	115.8						

県内の産業

(その34)

準戦時の工業

県統計課企画調整係長 横須賀弘

前号で触れたように「金属工業」および「機械器具工業」の昭15:昭17年の工場数の構成比をみると「金属」の全工場に占める割合は昭15年で8.4%、昭17年8.7%で0.3ポイントの増加、同じく、「機械」は18.1%:16.9%で1.8ポイントの増加であるが、「窯業及土石」および「紡織」についてみるとおのおの0.2ポイント、0.7ポ

イントの減少となり軽工業部門の産業の減少がみられます。(前号第3表参照)このことは、前にも述べたとおり、この時期から国内は臨戦体制下に突入し、軍需産業およびその基礎産業としての重化学工業が著しい発展をみせはじめたことによるものであります。

こうした、全国的視野のなかで、京浜工業地帯を擁す

る関東ブロック内の各都県についてみてみよう。

関東ブロック10都県の工場数は昭15年は41,964工場であつたが、昭16、17年と各年ごとに31.5%、32.3%とその比重を増している。しかしながら

第1表

関東ブロック内工場数の全国工場数に占める構成比

	全国工場数	関東ブロック	
		工場数	構成比
昭15年	137,805	41,964	30.5%
16〃	136,467	42,953	31.5
17〃	128,392	40,858	32.3

各都県の工場数の増加率をみると、必ずしも全都県内の工場が増加したとは云い切れないものがある。すなわち、昭和16年で最も高い増加率を示した都県は、東京、群馬であり、それでも104.2%（前年対比）程度に止まっております。これに対し、神奈川、山梨、栃木、静岡等の各県においてはそれぞれ減少を示しており、この傾向は昭17年はさらに著しく、栃木を除いた他の都県はことごとく減少を示し、とくに山梨は著しい減少を示しております。このように構成比と増加率とで目立つたアンバランスを示したことは、関東ブロック以外の地域内工場の減少の著しかつたことが推定されましよう。

第2表 関東都県別工場数

	昭15年		昭16年		昭17年	
	工場数	前年対比	工場数	前年対比	工場数	前年対比
計	41,964	102.4	42,953	102.4	40,858	95.1
茨城	1,157	104.1	1,025	104.1	1,082	89.8
栃木	1,729	98.9	1,710	98.9	1,756	102.7
群馬	2,087	104.2	2,174	104.2	1,907	87.7
埼玉	3,056	101.7	3,108	101.7	2,950	97.3
千葉	1,664	102.0	1,698	102.0	1,652	97.3
東京	21,236	104.0	22,119	104.0	21,534	97.7
神奈川	2,625	95.9	2,517	95.9	2,458	97.7
山梨	1,240	96.6	1,198	96.6	924	77.1
長野	2,187	103.7	2,269	103.7	2,078	91.6
静岡	4,983	99.4	4,955	99.4	4,517	91.2

資料：工業統計表

第4表 産業別生産額

	15年		16年		17年	
	生産額	構成比	生産額	構成比	生産額	構成比
計	256,338,290	(100.0)	299,824,107	(100.0)	311,942,403	(100.0)
金属工業	23,683,835	9.2	38,446,554	12.8	37,835,034	12.1
機械器具	141,542,382	55.2	171,188,192	57.1	191,995,344	61.5
化学工業	19,444,291	7.6	19,118,353	6.4	13,497,733	4.3
窯業及土石	4,327,041	1.7	5,269,351	1.8	5,260,937	1.7
繊維	24,426,743	9.5	19,842,185	6.6	19,342,093	6.2
製材及木製品	8,732,505	3.4	10,615,172	3.5	6,917,177	2.2
食料品	28,532,684	11.1	30,354,768	10.1	30,324,377	9.7
印刷業及製本業	1,649,805	0.6	821,169	0.3	946,970	0.3
その他の	743,996	0.3	873,037	0.3	1,223,014	0.4
加工賃及び修理料	3,263,008	1.3	3,295,326	1.1	4,599,724	1.5

本県における工場の増減もまた同様に、昭15年1,157工場、昭16年1,205工場で48工場（4.1%）の増加をみたが、昭17年は1,082工場で前年にくらべ123工場（10.2%）の減少を示したのであります。

次に、県内の生産額についてみてみよう。県内の生産額は、昭15年2億5,600万円で昭17年3億1,194万円で、昭15年にくらべ1,160万円（21.7%）の増加をみたのでありますが、この産業別の構成をみてみよう。

昭和15年の生産額のうち重化学工業部門の生産額の総生産額に占める割合は第3表のとおり、重化学工業部門の生産額は18,467万円で、全体の72.0%を占め、昭16年には76.3%、昭17年は77.8%と年々その比重を増していることがわかる。この活発化した重化学工業部門のうち、最も寄与の高い産業は「機械器具工業」である。

第3表 産業構造別生産額

	県計	重化学工業		軽工業	
		生産額	構成比	生産額	構成比
昭15年	25,634	18,467	72.0	7,167	28.0
16〃	29,982	22,875	76.3	7,107	23.7
17〃	31,194	24,333	77.8	6,861	22.2

当該産業の生産額は約1億1千万円で、これが昭17年には約1億9,200万円と大きく伸び、その構成比も昭15年の55.2%から、昭16年の57.1%、昭17年の61.5%と、昭12年は昭15年にくらべ4.4ポイントの増加を示したのであります。次いで「金属工業」「化学工業」と続いているが、「化学工業」は年々減少しているが目立っている。

これに対し、軽工業部門の主要産業である「食料品」及び「繊維」はそれぞれ減少が目立ち、「食料品」で昭和17年は昭15年にくらべ1.4ポイント、「繊維」で3.3ポイントの減少があつたのであります。

◇((((> 報 告 <))))◇

昭和43年度

学校基本調査結果の概要

1. 目的
学校教育法における学校の全般に関し、基本的事項を調査し、教育行政上の基礎資料を得ることを目的とする。
2. 調査事項
つぎの調査に区分し、設置者より、学校種別、本校又は分校の別により、主として、下記の事項を調査した。
 1. 学校調査、児童生徒数、学校学級教員数、入学卒業者数等
 2. 学校通信教育調査、生徒数、科目別受講者数等
 3. 不就学令児童生徒調査、就学免除者数、就学猶予者数等
 4. 卒業後の状況調査、進路別卒業生数（産業別、職業別）

5. 学校施設調査、学校建物および面積
6. 学校経費調査、学校経費および財源
3. 調査の範囲
 - (1) 小学校、中学校、高等学校、大学、盲聾養護学校および幼稚園
 - (2) 学校教育法83条に基く各種学校
 - (3) 同施行以前の従前の規正に基く学校
 - (4) 同法22条および39条の学令児童生徒
4. 調査期日
昭和43年5月1日現在ただし、学校経費調査については、昭和42年会計年度とした。

表 1

職業別就職者数（就職進学者を含む）

職 業	男	女	
a 専門的・技術的職業従事者	128	11	
b 事務従事者	1,467	4,637	
c 販売従事者	1,436	2,442	
d 農林業作業業者	1,574	320	
e 漁業作業業者	15		
f 採鉱・採石作業業者	16		
g 運輸・通信従事者	497	95	
h 技能工 生産工 程作業 者	1. 金属材料製造	560	6
	2. 金属加工	631	32
	3. 電気機械器具組立修理	919	1,087
	4. 製糸・紡織	31	73
	5. 裁断・縫製	35	287
	6. 飲食料品製造	274	78
	7. その他	1,263	162
i 単 純 労 働 者	147	7	
j 保安職業従事者	510	2	
k サービス職 業従事者	家事サービス	17	118
	対個人サービス	133	270
	その他	137	149
上記以外のもの	113	141	
計（就職者+就職進学者）	A~D 9,903	E~H 10,017	

表 2 進路別卒業生数（昭和43年3月本科卒業生専攻科別卒業生を除く。）

進 路	男	女	
進 学 者	大 学 (学 部)	2,074	565
	短 期 大 学 (本 科)	147	1,613
	大 学・短 期 大 学 の 別 科	106	38
	高 等 学 校 の 専 攻 科		22
就 職 者	国 立 養 護 教 諭 養 成 所	A 9,793	E 9,970
		B	F
就 職 進 学 者	大 学 (学 部)	83	8
	短 期 大 学 (本 科)	C 23	G 38
	大 学・短 期 大 学 の 別 科	D 4	H 1
無 業 者	2,550	3,367	
そ の 他 (死 亡・不 詳)	155	181	
計 (卒 業 者 総 数)	14,935	15,803	
上記の「就職者」および「就職進学者」のうち自家・自営業についての者（再掲）	1,966	463	
「8」のうち大学(学部) ⁹ または短期大学本科への入学志願者数（再掲）	大 学 4,313	984	
昭和42年3月以前卒業のうち、本年度大学(学部)短期大学入学志願者および進学者数	42年3月入学大 学	1,757	226
	42年3月入学短期大学	43	233
	41年3月入学大 学	1,090	145
	41年3月入学短期大学	27	178
	41年3月入学大 学	544	42
	41年3月入学短期大学	29	129
	40年3月入学大 学	314	16
	40年3月入学短期大学	19	112
	40年3月以前卒業進学者		
	40年3月以前卒業進学者		

(表 3)

小・中学校学校数、児童生徒数

	小 学 校		中 学 校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
水戸市	20	14,461	11	7,977
日立市	21	16,104	14	8,603
土浦市	13	7,223	5	3,678
古河市	7	5,273	2	2,510
石岡市	7	3,558	3	1,956
下館市	13	5,300	4	3,346
結城市	7	4,097	5	2,614
竜ヶ崎	8	3,179	2	1,789
妻小栗	6	3,930	3	2,085
海老原	8	2,863	3	1,868
陸田	11	3,560	4	2,168
勝田	12	3,705	4	2,160
高萩	9	5,151	5	2,524
北茨城	7	3,632	4	2,243
笠間市	14	6,939	7	4,024
市計	12	3,417	4	2,063
市計	175	92,392	80	51,608
常陸那珂	4	1,003	1	650
茨城川	11	3,324	3	2,105
野里	6	1,890	2	1,124
美原	4	1,653	2	917
小美原	2	1,324	1	781
内原	4	1,192	1	794
常陸大洗	4	876	1	563
前山	3	786	1	519
御代	4	2,505	2	1,399
東茨城郡計	42	14,553	14	8,852
友部	4	2,067	3	1,183
七岩	4	1,567	1	911
会瀬	3	463	1	287
西茨城郡計	11	2,522	3	1,523
東那珂	4	1,617	1	732
瓜戸	8	3,145	3	2,025
大山	1	711	1	388
美緒	10	2,656	4	1,567
那珂郡計	10	1,407	1	917
那珂郡計	7	1,004	2	655
那珂郡計	5	892	2	589
那珂郡計	45	11,432	14	6,873
金砂	6	1,557	2	1,029
水府	6	1,392	1	870
里美	7	960	1	622
大子	22	4,706	9	2,848
久慈郡計	41	8,615	13	5,369
十王町	4	1,157	2	785
旭鉾	6	1,164	1	866
田村	12	3,051	2	2,112
大野	4	1,121	1	766
鹿野	4	1,128	1	780
神島	6	1,973	2	1,073
波崎	4	1,909	3	1,116
鹿島郡計	6	2,979	3	1,577
鹿島郡計	42	13,325	13	8,290

	小 学 校		中 学 校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
麻生町	8	2,089	2	1,342
牛堀	3	772	1	401
潮来	8	1,958	2	1,113
北浦	5	1,338	1	937
玉造	7	1,639	1	982
行方郡計	31	7,796	7	4,775
江美	5	1,137	1	732
戸崎	4	790	1	471
阿部	6	2,128	1	1,238
牛久保	5	1,748	2	945
茨城	2	607	1	355
利根	3	814	1	543
内村	4	1,255	2	784
河内	4	719	1	465
榎東	5	1,500	2	871
稲敷郡計	38	10,698	12	6,404
出玉	10	1,412	2	1,048
島郷	3	443	1	268
八千代	13	3,119	4	2,103
新治	5	1,198	1	715
千代田	3	663	1	429
新治郡計	4	745	1	439
谷田部	7	1,797	2	1,125
伊奈	6	961	2	791
谷和	4	907	1	382
豊里	3	920	1	595
筑波	10	2,145	2	1,352
筑波郡計	4	1,040	2	630
筑波郡計	34	7,770	10	4,875
関野	3	1,618	1	1,049
明壁	6	1,742	1	1,165
真大	5	2,236	2	1,313
協和	2	802	1	537
真壁郡計	3	1,591	1	959
真壁郡計	19	7,989	6	5,023
八千代	6	2,617	2	1,678
千代	3	823	1	550
石下	5	1,876	2	1,164
結城郡計	14	5,316	5	3,392
総和	9	2,251	1	1,329
五霞	5	957	1	651
三猿	5	2,261	1	1,435
岩井	6	1,674	3	1,104
岩境	10	3,749	6	2,248
猿島郡計	8	2,564	2	1,532
猿島郡計	43	13,456	14	8,299
守取	4	1,133	1	750
藤谷	5	2,549	3	1,197
利根	5	1,227	2	746
北相馬	4	804	1	530
北相馬郡計	18	5,713	7	3,223
合 計	606	214,411	215	126,674

伊奈村組合立1校637名 水戸市私立中1校801名 日立市私立小1校6名 私立中1校165名を除く

表 4

就職先の都道府県別産業就職者数

(就職進学者を含む)

区 分	A 農 業		B 林業・ 狩猟業		C 漁業・ 水産養 殖業		D 鉱 業		E 建設業		F 製 造 業		G 卸 売 業 小 売 業		H 金融・ 保険業		I 不 産 動 業		J 運 輸 ・ 通 信 業		K 電 気 ・ ガ ス ・ 水 道 業		L サ ス ー ビ 業		M 公 務		左記以 外の もの		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北海道 北岩手 山形 福島 茨城	1,546	322	23	2	4	7	28	5	93	59	1,750	2,295	747	2,129	111	431	10	4	270	147	49	69	183	610	524	262	78	115	5,416	6,457
栃群 群 馬 埼 玉 千 葉 京 都	9	1	3	7	6	9	1	5	2	125	441	1,167	801	596	1,360	52	73	6	8	292	76	58	13	188	297	271	52	38	2,813	2,767
神奈川 新 富 山 山 梨 長 野				1					6	2	353	100	38	70	2	1			42	5	4	4	14	19	96	2	5	1	560	205
岐 静 静 愛 三 京	1		1								7	30	2	1	3	1				2	2		2	10	1		1		14	29
大 阪 兵 庫 和 歌 山 島 徳 島									5		22	2	8	1	2					2		1	2						40	5
福 岡 長 門 大 分 外 国 不 詳						2					137	3	1							3	7								144	3
計	1,568	331	36	3	16	8	33	7	239	111	3,973	3,491	1,510	3,713	175	518	17	12	661	240	132	87	412	1,000	975	331	156	165	A~D 9,903	F~H 10,017

卒業後の状況(中学校)

就職先の都道府県別産業別就職者数(就職進学者を含む)																														
区分	A 農業		B 林業・狩猟業		C 漁業・養殖業		D 鉱業		E 建設業		F 製造業		G 卸売業		H 金融・保険業		I 不動産業		J 運輸・通信業		K 電気・ガス・水道業		L サービス業		M 公務		左記以外のもの		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北海道																														
青森																														
岩手																														
宮城																														
秋田																														
山形																														
福島																														
茨城																														
栃木																														
群馬																														
千葉県																														
東京都																														
神奈川県																														
新潟県																														
富山県																														
石川県																														
福井県																														
長野県																														
岐阜県																														
静岡県																														
愛知県																														
三重県																														
滋賀県																														
京都府																														
大阪府																														
兵庫県																														
奈良県																														
和歌山県																														
鳥取県																														
岡山県																														
広島県																														
山口県																														
徳島県																														
香川県																														
高松県																														
愛媛県																														
高知県																														
福岡県																														
佐賀県																														
熊本県																														
大分県																														
宮崎県																														
鹿児島県																														
沖縄県																														
不詳																														
計	1,164	724	5		56	67	7	788	43,830	3,304	419	540	2					111	162	130	49	465	1,108	17	20	240	198	7,294	6,116	

卒業後の状況 (高等学校)

就職先の都道府県別産業別就職者数 (就職進学者を含む)																															
区分	A 農業		B 林業・狩猟業		C 漁業・養殖業		D 鉱業		E 建設業		F 製造業		G 卸売業		H 金融・保険業		I 不動産業		J 運輸・通信業		K 電気・ガス・水道業		L サービス業		M 公務		左記以外のもの		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
北海道											1														1	1			1	2	
北岩山福茨	3																														
手形島城		322	3	2	1	4	7	28	5	93	59	1,750	2,295	747	2,129	111	431	10	4	270	147	1	1	183	610	524	262	78	116	5,416	6,457
木馬玉葉京	9		3							5	113	55	15	18	1	2			5	2			5	9	3	1	2	1	158	88	
椋群埼千東	1									3	23	11	4	3					5				7	17	39	2	6		39	15	
奈川潟山梨野	8									1	139	68	13	36	3	3	1		11		3		9	17	39	2	6		220	126	
神新富山長		7								5	220	121	76	89	7	7			21	6	17		9	30	25	9	2		386	274	
岐静愛三京		2	6		9	1	5	2	125	44	1,167	801	596	1,360	52	73	6	8	292	76	58	13	188	297	271	52	38	38	2,813	2,767	
阪庫山島島										6	2	353	100	38	70	2	1			42	5	4	4	14	19	96	2	5	1	560	205
大兵和広徳																															
福岡分																															
外国・不詳																															
計	1,568	331	36	3	16	8	33	7	239	111	3,973	3,491	1,510	3,713	175	518	17	12	661	240	132	87	412	1,000	975	331	156	165	9,903	10,017	

◇技術産業の花形◇

宇宙時代の食料品「クロレラ」

先程、国際連合経済社会局が、21世紀の世界人口を推計しました、これによりますと、61億3000万人に達するということです。現在は約30億人ですので、今後30年間で約2倍に増加するわけです。

このような次第で、今世紀最大の問題は、食糧確保にあるといわれています。

それでは、どのようにして激増する世界人口の食糧をまかなうか。

ここで注目され始めたのが、宇宙食として端を発したクロレラの養殖です。

ではクロレラの正体は？

クロレラは、地球の創生期に最初に登場した生物のようなもつとも下等な単細胞生物で、光合成を行ない、二酸化炭素と水からタンパク質をつくり出します。

成分は、タンパク質が54%、その他脂肪や糖、ヨウ素、フッ素などのミネラル、それにビタミンA、B、Cなど。

ビタミンについては、大人1人、1日に必要な量が、わずか1gのクロレラでこと足りるといわれます。

この上繁殖率が非常に強い。

最適条件で霞ヶ浦一ばいに1年間栽培すると、1億人の国民に充分な良質のクロレラタンパクがまかなえます。

ところで最初にクロレラ研究を始めたのは、ドイツです。我国でも、1957年に設置された日本クロレラ研究所

で、年産10トンのテスト培養がすでに行なわれています。

このようにクロレラは、栄養の面からも、培養技術の面からも、非常に有効な食料として期待されているわけです。

しかし、いざ食品として用いる段になるとニオイも味も青くさく、さらにやつかいなことに、単細胞生物特有の性質として細筋をまもる膜がかたく消化に悪いという性質をもっています。

現在では、東大や京大、徳川生物研究所、日本クロレラ研究所などが中心となつてこれらの面の研究も進み無色、無味、無臭のクロレラ粉末が生みだされておりますし、また尿素溶液を用いて堅い細胞膜を破壊させるなど、食用としての実用化へ大きく前進しています。またクロレラの効能については、次のような結果が出されています。

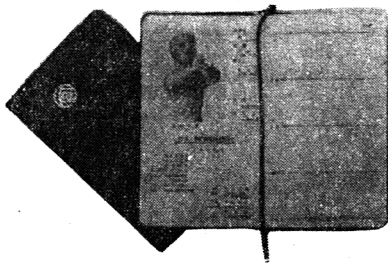
たとえば、乾燥クロレラ2%の飼料をニワトリに与えると育雛率が向上し、産卵開始時間も早くなります。

また、5%クロレラによる4ヶ月間の発卵数は、クロレラを含まない飼料では135個に対し334個という結果も出ています。

ただクロレラは、まだまだ高価はもので、1kgあたりの値段は、約6000円程度します。安価な大量生産が各界から望まれているわけです。

昭和44年版

茨城県民手帳



予約募集開始 / / 切9月30日

定価 1冊 100円

規格 普通ポケット型 254頁

申込先 水戸市三の丸1-5-38

茨城県統計課内 茨城統計協会

TEL. 水戸 (2) 8111 内線 217

配布予定 11月初旬

県内主要経済指標

1 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場

年 月	銀行券 増減(△)	手形交換高		不渡手形実数		株式取引高		県内 百貨店 売上高	労働市場		
		枚数	金額	枚数	金額	株数	金額		新規求職 申込件数	新規 求人人数	就職件数
	百万円	千枚	百万円	枚	千円	千株	百万円	百万円	件	人	件
昭和 38 年	△ 988	311	101,448	5,974	319,101	281,326	41,000	3,770	45,615	51,423	24,034
39 年	△ 5,614	355	142,640	8,828	795,395	166,210	19,185	4,341	43,724	55,018	24,833
40 年	△ 7,200	380	147,872	10,404	847,229	300,719	34,771	4,799	42,433	42,684	20,693
41 年	△ 1,345	436	163,444	9,901	835,514	314,579	46,589	5,472	41,509	54,084	20,587
42 年 1 月	△ 7,110	34	14,842	693	84,295	31,088	3,972	442	3,808	6,755	1,653
2 月	△ 140	36	14,325	624	59,427	39,850	4,758	410	3,482	4,537	1,629
3 月	2,276	40	16,875	748	83,047	20,802	3,181	541	3,951	5,596	2,063
4 月	△ 796	34	16,215	423	43,279	14,672	2,033	509	3,604	6,074	1,630
5 月	△ 1,306	44	16,097	1,120	103,168	30,527	4,787	424	3,678	6,128	1,709
6 月	1,852	45	16,640	738	77,365	25,345	4,029	542	3,333	5,562	1,645
7 月	△ 687	41	16,331	671	61,832	22,084	4,202	594	3,683	6,507	1,792
8 月	△ 2,167	41	16,153	668	58,986	19,911	3,719	417	3,432	6,840	1,845
9 月	663	40	16,914	568	60,677	14,919	2,092	441	3,414	6,284	1,758
10 月	2,012	40	17,765	695	73,009	18,314	3,527	536	3,251	6,774	1,783
11 月	68	40	15,792	788	91,451	13,620	2,415	557	3,742	5,261	2,155
12 月	7,588	49	20,028	582	76,868	10,871	1,598	1,253	2,140	4,251	1,339
43 年 1 月	△ 8,329	42	18,216	960	127,442	12,611	1,705	571	3,787	5,789	1,675
2 月	△ 1,036	41	15,469	946	93,561	19,764	2,712	556	3,394	5,521	1,781
3 月	2,106	40	18,418	581	80,036	29,742	4,454	828	3,545	4,972	1,931
4 月	△ 153	45	21,086	1,192	133,152	43,145	7,308	686	3,815	5,816	1,598
5 月	△ 2,135	44	17,488	826	88,478	53,291	10,017	543	3,662	6,460	1,678
6 月	...	42	17,030	419	45,831	39,671	6,273	674	3,100	4,982	1,652

資料：手形・株式＝大蔵省水戸財務部
銀行券・百貨店＝日銀水戸事務所

2 世帯・人口および人口増減

年 月	世帯数	人 口				前1カ月の増減	自 然 動 態			社 会 動 態		
		総 数	男	女	出生		死亡	増減	転入	転出	増 減	
昭和41年10月	453,110	2,056,637	1,008,221	1,048,416	—	1,895	1,082	813	6,599	7,407	△ 808	
昭和42年 1月	454,543	2,057,847	1,009,110	1,048,737	590	2,524	1,539	985	6,435	6,819	△ 384	
2	454,962	2,060,137	1,010,355	1,049,782	2,290	3,536	1,713	1,823	6,556	6,080	476	
3	455,394	2,062,819	1,011,777	1,051,042	2,682	3,446	1,528	1,918	7,066	6,284	782	
4	456,196	2,063,636	1,012,217	1,051,419	817	3,588	1,476	2,112	11,445	12,695	△1,250	
5	457,559	2,065,091	1,013,250	1,051,841	1,455	3,145	1,225	1,920	14,615	15,070	△ 455	
6	458,103	2,064,162	1,012,778	1,051,384	△ 929	3,356	1,253	2,103	8,501	11,606	△3,105	
7	458,805	2,065,207	1,013,384	1,051,823	1,045	2,628	1,097	1,531	7,472	7,958	△ 486	
8	459,295	2,067,088	1,014,495	1,052,593	1,880	2,750	1,109	1,641	6,543	6,308	235	
9	459,841	2,069,615	1,015,783	1,053,832	2,527	2,806	1,108	1,698	7,266	6,444	822	
10	460,405	2,071,277	1,016,757	1,054,520	1,662	2,724	1,004	1,720	7,409	7,462	△ 53	
11	460,964	2,072,847	1,017,495	1,055,352	2,776	1,254	1,522	1,522	6,781	6,746	35	
12	461,457	2,073,796	1,018,048	1,055,748	2,689	1,256	1,256	1,433	6,555	7,038	△ 483	
昭和43年 1	461,976	2,075,303	1,019,005	1,056,298	2,969	1,503	1,503	1,466	6,310	6,265	45	
2	462,467	2,076,432	1,019,604	1,056,828	1,129	3,357	2,081	1,276	6,965	7,110	△ 145	
3	462,941	2,077,621	1,020,197	1,057,424	1,189	3,113	1,891	1,222	7,062	7,090	△ 28	
4	463,596	2,073,172	1,017,941	1,055,231	△ 4,449	3,004	1,562	2,442	12,530	18,423	△5,893	
5	466,310	2,077,082	1,020,086	1,056,996	3,910	3,075	1,267	1,808	18,182	16,126	2,056	
6	467,365	2,078,024	1,020,614	1,057,410	942	2,455	1,128	1,327	6,957	7,352	△395	

資料：県統計課（常住人口推計）

3 人 口 動 態

（県医業務課）

年 月	出 生		死 亡				自然増加 (A) - (B)	死 産		婚 姻	離 婚
	総 数 (A)	率	総 数 (B)	率	うち乳児	率		総 数	率		
昭和22年	69,164	34.3	28,475	14.1	5,615	81.2	40,689	3,344	46.1	22,249	1,270
25	59,723	29.3	24,867	12.2	4,147	69.4	34,856	5,236	80.6	17,913	1,314
30	44,592	21.6	18,732	9.1	2,099	47.1	25,860	4,025	81.7	14,684	1,046
35	35,664	17.4	17,709	8.7	1,473	41.3	17,955	3,500	87.2	16,326	996
40	38,357	18.6	16,888	8.2	877	22.8	21,469	2,956	71.5	18,697	1,068
41	25,837	12.5	15,947	7.7	621	24.0	9,890	2,698	89.1	18,060	1,120
42. 1月	4,549	—	1,745	—	76	—	2,804	242	—	1,409	100
2	3,811	—	1,540	—	102	—	2,271	272	—	1,633	86
3	4,147	—	1,523	—	66	—	2,624	262	—	1,945	109
4	3,493	—	1,280	—	60	—	2,213	246	—	2,017	109
5	3,327	—	1,234	—	44	—	2,093	215	—	2,012	98
6	2,944	—	1,112	—	47	—	1,833	198	—	1,451	78
7	3,153	—	1,154	—	52	—	1,999	221	—	991	92
8	3,127	—	1,101	—	41	—	2,026	229	—	711	98
9	3,078	—	1,032	—	42	—	2,046	236	—	714	99
10	3,056	—	1,257	—	49	—	1,799	240	—	1,139	94
11	3,115	—	1,298	—	44	—	1,817	210	—	1,807	105
12	3,442	—	1,608	—	69	—	1,700	217	—	2,197	98
43. 1月	663	—	879	—	—	—	△216	83	—	428	16
2	3,742	—	2,135	—	—	—	1,607	246	—	1,791	110
3	3,418	—	1,430	—	—	—	1,988	220	—	1,928	120
4	3,268	—	1,266	—	—	—	2,002	217	—	2,086	111
5	3,101	—	1,262	—	—	—	1,839	213	—	1,736	93

- (注) ① 昭和22年～41年は住所別別に組み替えた数値であるが、42年以後の各月分は、県内事件発生数である。
 ② 出生・死亡率は、人口1,000人対乳児死亡率は出生1,000人対、死産率は、出産1,000人対の数値である。
 ③ 昭和43年1月分は14日までの結果を計上したもので、15日以後の分については翌月の2月に含まれている。

4 消費者物価指数 (水戸市)

(40年=100)

	総 合	食 料	主 食	外 食	生鮮魚介	肉 類	乳 卵	野 菜	加工食品
昭和38年平均	88.7	85.4	86.4	83.4	74.3	95.8	98.7	57.2	88.2
39	91.5	89.2	87.7	87.5	77.2	98.7	96.6	64.0	93.7
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	104.4	103.2	105.4	102.0	102.3	102.0	103.3	93.8	101.1
42	107.9	107.1	109.0	108.2	115.1	107.6	106.0	109.8	102.0
年43 1月	111.9	112.9	117.7	109.1	124.2	111.6	125.4	121.5	103.6
2月	113.2	115.7	117.1	112.8	133.1	109.6	130.8	135.7	103.6
3月	113.3	115.6	117.1	115.0	128.7	109.6	130.8	126.9	103.6
4月	114.3	114.7	117.1	115.5	132.7	110.1	118.2	122.1	103.8
5月	115.0	114.6	117.1	115.5	139.7	112.7	116.2	121.1	104.0
6月	113.7	111.2	117.1	115.5	126.8	117.8	113.7	84.2	104.0
7月	114.0	112.2	117.2	113.4	136.2	121.2	117.7	69.7	104.7

(つづき)

	被 服	光 熱	住 居	家賃地代	設備修繕	家具什器	雑 費	保健医療	教養娯楽
昭和38年平均	88.3	99.3	92.9	77.0	99.6	95.9	90.7	103.1	85.2
39	91.1	99.3	93.4	77.4	99.0	97.1	92.8	91.8	88.8
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
41	103.8	97.2	105.3	115.4	105.6	100.9	107.1	99.8	108.6
42	105.3	98.0	109.2	120.9	115.0	101.5	111.3	99.9	114.0
43年 1月	108.9	99.4	113.4	123.9	125.8	102.8	113.5	105.7	115.5
2月	109.7	99.4	113.6	124.5	125.6	103.1	113.4	105.7	115.2
3月	109.4	99.4	113.7	124.8	125.6	103.1	114.1	106.0	117.0
4月	109.2	99.4	114.4	128.7	125.5	103.1	118.5	105.8	120.3
5月	108.7	99.4	117.1	129.7	134.1	103.3	120.0	105.8	121.9
6月	110.9	98.9	117.4	130.9	134.2	103.4	119.4	105.9	120.1
7月	110.4	98.9	116.9	130.8	134.2	102.4	119.4	105.9	119.9

資料：県統計課

5 県内金融機関別預金残高

単位 百万円

		銀 行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農 協	郵 便 局	商工中金 その他	労働金庫	
昭和41年	4月	187,971	28,682	24,392	15,352	26,856	51,735	9,616	2,310	
	5月	187,334	28,587	24,438	15,589	25,941	51,792	9,549	2,318	
	6月	190,156	28,991	24,656	15,907	26,027	52,759	9,828	2,466	
	7月	192,365	29,522	25,296	16,327	30,093	54,007	9,914	2,526	
	8月	193,568	30,035	25,476	16,458	30,438	54,579	12,039	2,560	
	9月	203,410	31,396	26,309	18,257	41,242	54,826	16,931	2,556	
	10月	203,265	30,813	26,927	17,181	40,614	56,040	17,139	2,548	
	11月	212,104	31,313	27,566	17,397	42,232	56,567	17,124	2,589	
	12月	214,900	33,408	29,528	19,911	41,189	59,822	18,055	2,865	
	43年	1月	255,752	39,318	36,375	24,196	54,290	75,782	27,033	3,698
		2月	255,535	39,337	36,389	24,227	51,183	76,107	25,001	3,747
		3月	259,312	40,885	37,570	26,570	48,724	76,284	20,903	3,716
4月		270,453	40,024	36,996	24,892	46,751	77,150	20,666	3,666	
5月		269,566	40,654	37,300	25,395	45,414	77,617	19,572	3,654	
6月		273,551	42,065	38,259	26,119	...	79,646	...	3,902	

資料 大蔵省水戸財務部

6 県内金融機関別貸出残高

単位 百万円

		銀 行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農 協	商工中金 その他	労働金庫	
昭和41年	4月	112,416	20,290	16,995	14,067	13,699	8,480	1,441	
	5月	113,221	19,995	17,183	14,211	14,521	8,822	1,486	
	6月	113,580	20,391	17,679	14,404	15,267	10,185	1,486	
	7月	113,894	21,323	18,135	14,649	15,540	8,971	1,539	
	8月	112,302	21,614	18,566	15,122	15,594	9,041	1,578	
	9月	114,407	22,637	19,271	16,162	14,783	9,185	1,593	
	10月	103,659	22,991	19,733	15,799	14,255	9,317	1,624	
	11月	116,412	23,231	20,449	16,140	15,259	6,623	1,670	
	12月	122,899	24,311	21,613	17,494	15,487	9,362	1,786	
	43年	1月	144,103	29,212	28,314	21,300	19,328	21,617	2,214
		2月	144,247	28,939	28,793	21,774	20,023	19,174	2,231
		3月	146,998	29,876	29,507	22,799	21,284	19,713	2,160
4月		144,231	29,817	30,114	22,372	22,504	17,231	2,185	
5月		145,443	30,481	30,558	22,658	23,793	18,794	2,194	
6月		150,531	31,302	31,412	22,742	2,246	

資料：大蔵省水戸財務部

7 農産物の販売価格(平均)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイン純 種)
昭和40年	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
〃 41年	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
〃 42年	4月 6,641	1,800	388	221	461	1,670	1,799	63,500
5月	6,595	1,700	414	274	474	1,532	1,738	51,714
6月	6,536	1,700	310	140	474	1,521	1,845	59,375
7月	6,445	2,964	204	215	476	1,573	1,950	59,000
8月	6,377	2,833	211	233	477	1,841	2,238	59,500
9月	6,582	2,500	218	261	—	1,986	2,414	61,000
10月	7,155	2,100	277	344	—	1,996	2,470	61,000
11月	7,282	2,067	228	229	—	1,992	2,425	61,875
12月	7,264	2,067	240	159	—	2,189	2,324	62,875
昭和43年	1月 7,255	2,067	250	172	—	2,176	2,243	66,125
2月	7,236	2,150	282	176	—	2,355	2,169	66,125
3月	7,236	2,150	284	174	—	2,214	2,144	66,125
4月	7,633	2,100	—	—	483	1,699	2,238	74,333
5月	7,467	—	—	—	480	1,710	2,452	76,500
6月	7,400	—	150	—	479	1,504	2,573	76,500
7月								

資料：農林省茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年以後の価格は、それぞれの代表生産地における価格である。

8 農業用品の購入価格

年 月	乳用牛 (成蓄めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす、生 後50~70 日中ヨー クシヤー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 かます40 kg可溶性 りん酸17 %	複合肥料 (N8%. P 8%. K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (乳牛用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (46.6又は 46.7%乳 済 単位 100cc)
昭和40年	152,701	5,446	800	561	807(40kg)	797	1,028	191
〃 41年	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	188
〃 42年	4月 192,250	4,318	802	594	623	803	1,011	185
5月	192,875	3,700	802	595	626	803	1,011	185
6月	197,250	3,645	802	595	626	803	1,011	185
7月	201,000	3,818	802	595	626	803	1,011	185
8月	202,250	4,109	792	591	621	802	1,015	185
9月	203,500	4,900	788	591	623	797	1,015	173
10月	205,375	5,382	777	585	614	797	1,015	173
11月	206,625	5,800	776	584	613	798	1,015	173
12月	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	173
昭和43年	1月 218,500	5,527	768	580	613	794	1,015	173
2月	219,125	5,382	768	580	613	791	1,015	173
3月	219,125	5,391	770	586	615	787	1,009	173
4月	247,500	5,700	758	593	625	793	1,078	190
5月	250,000	6,300	780	595	671	793	1,078	193
6月	255,000	6,500	780	595	671	793	1,078	193

資料：農林省茨城統計調査事務所 (注) 昭和43年4月以後の価格は農業地域代表市町村の価格である。
昭和43年9月以後子豚の価格はランドレース (FI) 70日程度の価格である。

9 茨城県鉱工業生産指数

(35年=100)

年 月	産 業 総 合	公 益 事 業	鉱工業	鉱 業	製造業			製造業	鉄鋼業	非鉄金 属工業	一 般 機 械	電 気 機 械
					石 炭 産 業	金 属 工 業	非金属 工 業					
昭和36年	126.5	96.9	126.6	102.9	101.8	103.8	120.1	129.7	128.5	140.2	155.8	143.8
37年	126.1	97.2	126.3	103.5	99.1	112.6	124.8	129.3	128.5	107.9	145.7	141.7
38年	140.8	84.1	141.2	105.8	101.8	113.9	139.5	145.7	133.8	138.8	169.2	145.1
39年	163.5	104.1	164.0	110.0	105.1	113.9	185.2	170.9	169.3	200.0	158.5	181.2
40年	180.5	109.4	180.9	109.4	101.2	111.6	176.6	190.6	159.0	193.8	159.0	251.2
41年	201.6	303.3	201.0	118.1	117.7	114.9	152.0	211.8	183.1	211.2	192.2	279.3
42年	207.1	710.7	204.0	111.9	109.4	109.6	181.5	216.4	213.6	255.4	176.5	247.1
43年 1月	132.4	119.8	132.4	97.1	96.8	102.5	92.5	132.6	144.0	113.1	141.5	138.4
2月	132.6	118.1	134.0	98.1	97.8	101.8	91.4	135.8	125.9	115.1	124.1	140.1
3月	141.4	120.1	141.4	102.1	96.1	100.6	114.2	149.8	138.1	124.4	131.0	144.2

(つづき)

年 月	輸送用 機 械	精 密 機 械	窯 業	化 学 工 業	石油石 炭製品	皮 革 工 業	紙 及 パルプ	織 維 工 業	製 材	食料品 工 業	たばこ 工 業	その他の 工 業
昭和36年	193.6	155.5	100.3	107.0	96.2	117.9	120.5	142.3	106.8	105.9	81.8	130.2
37年	215.1	653.3	98.8	90.8	94.5	172.1	149.7	165.2	112.6	119.0	74.0	114.2
38年	266.7	1,064.8	100.7	94.3	77.5	220.3	162.2	176.7	108.0	122.7	72.0	162.2
39年	318.0	1,260.0	120.7	97.2	70.0	255.8	175.4	144.7	128.2	126.2	56.9	169.6
40年	295.3	1,175.9	122.9	80.4	71.8	276.5	174.8	169.6	123.2	130.1	37.8	253.0
41年	330.2	1,137.9	128.7	99.5	67.1	290.8	216.4	159.3	133.4	140.3	27.0	282.1
42年	434.3	1,172.7	146.1	125.1	53.7	385.6	243.5	189.9	131.2	169.5	12.0	308.3
43年 1月	125.1	72.1	110.1	112.7	87.5	751.2	142.5	118.0	114.9	118.5	180.4	122.0
2月	132.4	78.5	108.5	120.0	90.1	749.8	151.2	121.1	113.8	112.4	195.7	122.1
3月	148.5	77.0	114.5	122.1	92.1	818.5	154.4	104.8	120.5	132.5	191.0	141.8

資料：県統計課

(注) 昭和43年1月以後は昭和40年を100としたものである。

10 産業別推計労働者数・平均

	調査産業総数			鉱業		
	本 月 末 数	実労働時間数	現金給与総額	本 月 末 数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	164,774	193.5	29,318	11,807	199.8	34,515
" 40年	155,584	186.4	32,542	12,196	199.2	37,797
" 41年	145,483	187.2	36,878	12,902	201.0	40,549
" 42年	146,584	191.7	42,417	11,849	193.8	45,128
昭和42年						
1月	142,932	178.2	33,801	12,942	194.5	36,713
2月	143,380	194.1	31,292	12,815	194.9	36,135
3月	143,806	187.1	32,519	12,658	200.3	36,968
4月	146,907	197.2	32,209	12,312	189.8	35,203
5月	144,932	183.4	33,776	12,073	188.5	35,670
6月	144,450	206.3	63,365	11,494	193.7	50,614
7月	146,894	178.2	45,834	11,270	189.6	43,655
8月	146,703	185.3	35,452	11,311	183.4	55,623
9月	145,720	199.4	35,016	11,194	196.7	37,785
10月	148,655	195.5	36,605	11,185	193.4	42,029
11月	151,618	195.3	35,778	11,435	198.4	41,727
12月	153,014	200.3	93,355	11,497	202.2	89,380
昭和43年						
1月	160,159	175.8	42,416	11,487	181.0	38,058
2月	159,026	195.1	35,682	11,331	195.2	40,357
3月	156,975	191.3	37,806	11,225	198.2	41,648
4月	160,468	199.6	36,778	10,594	192.1	40,468
5月						

	卸売小売業			金融保険業		
	本 月 末 数	実労働時間数	現金給与総額	本 月 末 数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	8,086	192.6	25,545	5,288	180.1	37,085
" 40年	7,426	197.4	29,061	5,112	166.2	41,419
" 41年	6,498	195.4	28,924	4,634	151.8	43,758
" 42年	6,873	191.6	31,064	4,555	169.6	46,006
昭和42年						
1月	5,979	185.9	23,650	4,441	158.5	40,296
2月	5,899	180.8	24,095	4,605	166.7	30,818
3月	5,991	183.3	22,958	4,582	165.9	43,716
4月	6,838	202.1	24,569	4,648	177.0	35,548
5月	6,713	180.8	24,286	4,470	159.3	31,728
6月	6,660	218.2	42,541	4,563	179.3	57,554
7月	7,508	198.9	30,636	4,602	178.7	52,035
8月	7,438	176.8	25,541	4,641	181.5	34,862
9月	7,366	191.6	26,156	4,661	173.3	51,339
10月	7,317	192.5	27,826	4,507	165.9	38,557
11月	7,348	184.6	27,795	4,455	168.9	35,367
12月	7,420	203.3	72,713	4,486	160.2	100,251
昭和43年						
1月	7,943	175.6	28,873	4,426	159.1	48,676
2月	7,208	185.6	26,818	4,452	179.4	38,835
3月	7,495	182.5	27,527	4,501	161.5	60,001
4月	7,958	195.6	28,637	4,486	163.0	39,402
5月						

資料：県統計課

労働時間および平均月間給与額

(30人以上の事業所)

建設業			製造業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
6,829	181.2	28,017	108,943	191.3	27,072
6,047	174.2	30,625	103,093	180.7	29,999
5,098	165.7	30,300	96,831	175.4	34,870
4,338	161.1	37,695	101,726	196.3	40,845
5,056	157.9	24,324	97,328	176.6	33,278
5,469	164.3	26,233	97,410	198.7	30,097
5,276	94.7	36,122	98,229	190.9	29,593
4,796	149.8	25,905	100,949	202.6	31,048
3,631	140.4	27,356	100,731	184.9	33,722
3,653	174.8	59,896	100,836	210.8	64,382
4,114	172.0	35,751	102,035	202.3	45,427
3,819	171.0	27,216	102,091	184.8	33,139
3,512	176.7	32,285	101,868	203.5	34,394
3,585	169.5	34,668	104,892	198.4	34,661
4,199	183.8	35,822	106,974	198.1	34,424
4,941	177.9	86,761	107,367	203.4	85,954
7,033	150.3	28,966	112,628	175.9	43,993
7,143	142.7	26,258	111,722	200.7	35,059
4,703	141.0	33,131	111,823	194.9	35,091
3,968	160.6	34,603	115,957	204.3	35,832

運輸通信業			電気・ガス・水道業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
22,167	197.8	36,607	1,623	178.5	49,490
19,012	192.1	40,528	1,943	174.0	55,638
15,610	190.3	45,243	2,245	166.6	64,110
14,456	194.2	51,829	2,377	176.0	72,459
14,445	188.9	37,120	2,363	155.0	52,066
14,421	192.2	36,433	2,364	166.6	50,695
14,302	194.6	43,533	2,336	178.7	55,140
14,584	193.2	37,778	2,368	170.7	56,077
14,482	187.6	36,690	2,420	179.8	50,519
14,428	198.1	36,314	2,403	189.5	157,833
14,559	195.6	49,836	2,398	186.5	54,821
14,617	199.3	39,272	2,377	183.8	58,534
14,335	195.6	40,128	2,369	178.6	60,239
14,368	192.8	47,336	2,376	181.7	54,013
14,414	195.2	41,288	2,365	163.0	56,956
14,518	197.8	49,220	2,354	177.5	162,616
14,441	189.0	141,678	2,360	159.3	54,905
14,376	198.7	41,361	2,364	168.4	54,317
14,425	208.8	52,443	2,376	167.4	57,028
14,637	197.5	42,000	2,414	173.3	54,411

11 主要品目小売価格(水戸市)

品目	銘柄	単位	38年 12月	39年 12月	40年 12月	41年 12月	42年 12月	43年 1月	7月	
うるち 食小干 干ま	米	非配給(内地白米)	1kg	84.70	125.00	131.00	129.00	140.00	140.00	136.70
	パ	普通品	〃	95.00	92.70	104.00	103.90	108.11	108.11	108.11
	麦	1等粉	〃	—	72.50	71.30	71.25	70.75	70.75	75.00
	うどん	中はだ切身	100g	51.80	77.00	77.00	77.00	77.00	77.00	77.00
か	れ	いがれ丸	〃	30.00	28.80	33.80	37.50	31.97	32.50	41.67
	煮	するめいか	〃	11.00	20.80	17.00	19.25	17.67	16.67	26.67
	塩	かたうちいわし	〃	40.00	38.80	37.00	38.75	40.00	40.00	47.00
	け	切身	〃	27.30	61.50	70.00	70.00	66.25	67.50	70.00
牛豚鶏ハ 牛	肉	中	〃	80.00	65.00	73.30	92.50	100.00	95.00	90.00
	肉	中上	〃	70.00	68.80	70.00	57.50	70.00	65.00	81.25
	肉	プレスハム中	〃	65.00	62.50	63.80	62.50	61.25	61.25	63.75
	ム	びん詰(180cc)	1本	50.00	53.80	63.80	65.00	66.25	66.25	68.75
パ	タ	雪印(225g入)	1箱	170.00	170.00	170.00	175.00	175.00	175.00	175.00
	鶏	1コ約60g	100g	24.00	21.50	26.30	23.00	25.00	24.38	20.50
	キ	草	1kg	25.00	90.00	31.30	36.25	47.50	45.00	29.25
	ほ	結球	1kg	4.88	5.00	4.33	7.75	6.75	10.25	17.00
ね	れ	ぎよ根	100g	4.75	5.25	3.50	6.75	6.25	5.75	13.00
	馬	んじ	1kg	30.00	32.50	37.50	55.00	57.50	60.00	47.50
	大	んじ	〃	7.50	17.50	3.00	13.25	32.50	26.25	50.25
	に	ぼ	100g	6.25	12.30	5.50	6.25	8.25	8.50	4.75
玉	ね	葉玉ねぎを除く	〃	12.00	4.00	7.00	8.50	9.50	12.00	4.25
	あ	大粒	〃	23.00	30.00	30.00	40.00	30.00	30.00	20.50
	干	黒のり中	10枚	120.00	223.00	145.00	195.00	185.00	192.50	245.00
	豆	糸ひき納豆	100g	5.00	6.25	6.58	6.58	7.14	7.14	7.14
ち	く	焼並	〃	10.80	12.20	11.60	12.50	14.28	14.28	14.28
	た	本づけ中	〃	14.30	11.80	9.50	11.75	14.50	14.50	15.00
	梅	中粒並	〃	20.00	48.80	50.00	46.25	38.75	38.75	38.75
	野	並	〃	20.00	17.50	17.50	17.00	17.50	17.50	17.50
み	砂	中	1kg	80.00	85.00	105.00	110.00	112.50	115.50	115.00
	食	上白	〃	190.00	136.00	134.00	123.75	126.25	126.25	123.75
	チ	大豆油、上	2dl	35.00	33.80	33.50	33.75	100.00	100.00	100.00
	キ	明治板チョコ(54g)	1枚	—	—	—	—	40.00	40.00	40.00
塩	せ	森永(12粒入)	1箱	—	—	—	20.00	20.00	20.00	20.00
	甘	うるち米粉製	100g	24.50	29.00	30.00	36.88	37.88	37.88	38.00
	落	並	〃	15.00	22.50	25.80	24.38	24.38	24.38	24.38
	み	バターピーナツ	〃	—	—	—	38.75	38.75	38.75	53.75
パ	ナ	国光	1kg	103.00	85.00	95.00	127.50	106.25	112.50	—
	い	台湾産	〃	—	97.50	100.00	126.67	88.33	80.00	185.00
	清	1級(1,800ml入)	1本	675.00	675.00	710.00	710.00	750.00	750.00	830.00
	ビ	(632ml入)	100g	115.00	115.00	120.00	120.00	120.00	120.00	127.00
せ	ン	中	100g	60.00	60.00	150.00	150.00	150.00	150.00	200.00
	茶		〃							

資料：県統計課

(つづき)

品目	銘柄	単位	38年	39年	40年	41年	42年	43年	〃 7月
			12月	12月	12月	12月	12月	1月	
かき家買板	ドンス賃代材	1杯	40.00	40.00	41.70	43.33	50.00	50.00	60.00
		1皿	70.00	100.00	96.70	96.67	100.00	100.00	100.00
		3.3m ²	324.00	359.00	491.00	520.15	631.65	633.01	655.94
		1畳	363.00	451.00	478.00	562.96	524.71	543.46	579.21
		3.3m ²	800.00	838.00	852.00	889.00	—	—	864.00
言ベニメ畳板	材板ト表ス	1本	800.00	839.00	920.00	1,100.00	1,412.50	1,412.50	1,412.50
		1枚	205.00	186.00	193.00	220.00	227.50	227.50	230.00
		1袋	400.00	340.00	340.00	350.00	360.00	360.00	360.00
		1枚	760.00	784.00	833.00	862.50	1,087.50	1,087.50	1,067.50
		1枚	100.00	95.00	120.00	120.00	150.00	150.00	150.00
大工手間	代らべん	1日	—	—	1,400.00	1,500.00	1,800.00	1,800.00	2,000.00
		1枚	—	—	—	111.67	98.33	98.33	82.67
		1個	433.00	530.00	530.00	560.00	583.33	583.33	560.00
		〃	433.00	433.00	683.00	760.00	796.67	796.67	901.67
		1箱	30.00	28.80	30.00	30.00	27.75	27.75	27.00
座敷時木	修理	1本	305.00	413.00	490.00	487.50	507.50	550.00	550.00
		1個	450.00	600.00	617.00	733.33	866.67	866.67	866.67
		1袋	528.00	—	545.00	575.00	675.00	690.00	690.00
		18ℓ	380.00	380.00	350.00	350.00	350.00	350.00	350.00
		10kg	—	800.00	800.00	750.00	750.00	750.00	750.00
男子婦人	下ツツ下ツツ	1足	200.00	200.00	233.00	200.00	220.00	220.00	243.33
		〃	350.00	333.00	300.00	200.00	200.00	200.00	150.00
		〃	113.00	133.00	160.00	150.00	150.00	150.00	150.00
		1反	267.00	260.00	270.00	266.67	276.67	276.67	290.00
		1反	—	2,700.00	3,600.00	4,266.67	4,033.33	4,033.33	—
タぬ男子運	オいぐぐぐ	1枚	70.00	70.00	70.00	70.00	76.67	76.67	80.00
		1巻	96.70	100.00	95.00	95.00	101.67	101.67	106.67
		1足	3,170.00	3,430.00	3,500.00	3,700.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00
		〃	360.00	383.00	457.00	456.00	473.33	473.33	473.33
		〃	355.00	365.00	375.00	377.50	382.50	382.50	442.50
仕せん	立たく	1着	8,000.00	9,000.00	9,830.00	9,833.00	1,333.33	11,333.33	11,333.33
		1枚	40.00	40.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
		1着	425.00	438.00	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00
		1箱	140.00	128.00	170.00	170.00	166.67	166.67	166.67
		1袋	36.30	34.00	36.70	30.75	30.75	30.75	32.50
理髪化粧	代り紙	1回	300.00	300.00	325.00	337.50	362.50	370.00	395.00
		〃	650.00	750.00	750.00	775.00	837.50	837.50	875.00
		1個	28.80	28.00	30.80	31.25	30.75	30.75	29.25
		1箱	90.00	92.50	90.90	90.00	90.00	90.00	90.00
		100枚	14.30	15.80	18.80	18.75	20.00	20.00	20.50
クリーノット	ム剤	1個	200.00	400.00	600.00	600.00	600.00	600.00	600.00
		1本	—	—	—	230	240.00	240.00	240.00
		1冊	—	—	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00
		〃	—	—	40.00	40.00	40.00	50.00	50.00
		本1	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
クレヨン	代	1箱	100.00	100.00	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00
		1枚	20.00	20.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00

// 統計にさよならをして明日に賭け //

7月1日、サラリーマンの総てがそうであるように、定期異動によつて、この川柳子もまた好むと好まざるに係わらず、一枚の辞令によつて長い間住み馴れてきたク統計クにお別れをして新しい職場ク転勤することになった。県庁という多種多様の職種のある中での転勤は、全く違つた仕事を一年生からやり直すということになる場合が多く、何んのつながりも持たない仕事の中で毎日テンテコ舞をしている現状に追いやられた。特に年度半ばのことで他人のやつてきた仕事をそのまま引受けることではあるが、そんな中で自分の進むべき方向を見つけ出そうとしているが、非才の身果してどうなることか、しつかりせよと心に言い聞かせた次第である。

// 大過なく過した過去に悔いがあり //

後悔は先に立たずとか、社会、経済の急激な変転の過程の中に生きる近代人としては、従前のように「大過なく」という過し方ではいけないそうである。むしろ良い意味での大過ある過し方がよろしいとか。そういう意味からすれば、自分の過去……半生を捧げてきた統計 という仕事を通じて考えてみて失格というところ、こんなことになるのならあれもこれもと思うのはあとの祭りで、ただ慚愧のいたり、人間老易、学成難という実感あるのみである。

// 送らるる言葉を胸に噛みしめる //

人間の平均年令男子68才くらい。その半生、正確に数えれば通算31年3カ月を統計一本槍で進んできたこの俺が、今さら50の手習でもあるまいが人生とはままならぬもので、転勤という私の一生の転換期となつたわけである。

生れて始めて送られる身になつたが、多く人を送つた身が立場を逆にして、上司はじめ同僚のみなさん方が、多分の送別の辞をいただいわけで、送られる身として聞く数々のありがたいことばが、この永い年月をふり返つてみて果してそうであつたらうかと反省しきりであつた。

// 栄転おめでとうと人はいうけれど //

異動の社会的あいさつ「おめでとう」ということは、送られる身になつてはじめて受けたこのことばの意味をどう解釈していいやら。もちろん他人にも従来おめでとうと言つてきたわけであるが、ただそのままの身分で横すべりの現在の椅子に納まつたのだからこれを栄転だと

他人が真低から思つて言つてくれるのだろうか。栄転だとか左遷だとか他人によつて受取り方はまちまちであろうが、自身では栄転だとは思われない。ただ、このような機会を通じてマンネリ化した自分が、新しい職場で、新しい視野でものを見つめ考えていく、そういう意味での自己啓発という点ではあるいはプラスになるのではあるまいかと愚考した次第である。

// 人間の意地が寂しさかくし //

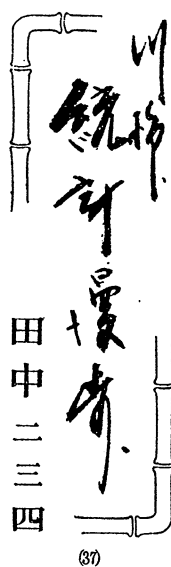
半生を過した職場のみなさんとお別れをするのは、何んもなく心残り寂しい限りである。独りでいるときは、過ぎ去つた数々の思い出が走馬燈のように悩裏を馳け巡つて当分は離れそうもない。戦前、戦中から現在まで自分も年老いたが、世の中の総てが、大きく変化し、職場環境や人の心、自分の身の廻りなどの目まぐるしい変り方の中で、若き日の佳き時代の想い出は甘く悲しく楽しいものである。その中で会つて別れた多くの人達の中には、社会的にいう偉くなつた人もあるし、あまり地位的に恵まれなれず去つた人も多い。しかし考えてみるば人間の価値なんてそういう点からばかり判断することはどうか。人間として最後に自分を見つめ人間らしい、悔いのない幸福であつたと感じられることがいいのではあるまいか。

〃 初めての異動已をためしたし 〃

会う人に、私の異動を珍らしがられる。何しろ県に奉職して28年2カ月での異動だとすれば無理のない話であろう。5年に1回づつ異動するものと考えてみても6回は動いたことになる。もつとも浅学非才のこの履歴では、他所では使いものにならないからということであつた

かも知れないが、今度の職場は「職員研修所」というところ。大勢の職員の研修事務を担当するところで、みんな学者のような人ばかり。そんな中へ、この学も無い異分子が飛び込んでいつたのだからテンテコ舞は当然である。そんなわけであるが、ここは男子、やると思えばと決意を新にして、勉強をやり直すことにしたわけである。自分が人間として欠点だらけであるだけに、研修という大きな使命を背負つてどこまでやれるか。自分の能力をためすチャンスでもあるような気もするが、当分は、自己研修を中心としてこれからの在り方を考えてみよう。

× × ×



(37)